



「無理なく続ける節約生活」



食料品や日用品などの値上がりが止まらず、節約のための工夫を求められる生活が続いています。以前よりも余分な買い物を控えて我慢することも多くなりましたね。節約生活というつつらいイメージを思い浮かべますが、気軽に続けられるようなヒントとなる本を紹介します。
(原真由美)

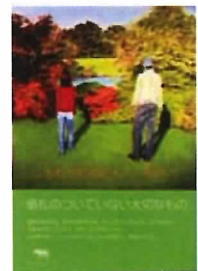
つばた英子・しゅういち『あしたも、こはるびより。』主婦と生活社 2011



愛知県の郊外に暮らすつばたさんご夫婦。元建築家の修一さんが設計した丸太小屋で、共に 80 歳を越えた年齢となっても健康的な暮らしを営んでいます。広い庭で育てた野菜で英子さんが作る料理はとっても美味しそう、壊れたら直して使う鍋や食器も愛おしい。足りない部分は二人で工夫して補い、よく働き、よく食べ、手作りのものに囲まれてこじんまり暮らす生活は、身の回りにものが溢れた自分の生活をあらためたくなります。

角田光代『しあわせのねだん』晶文社 2005

輝く女を目指して買ってしまった「すべすべクリーム」、編集者にご馳走してもらった「蟹コース」、今は亡き母親との最期の温泉旅行の費用などは決して無駄な出費ではなく、全て自分の経験や思い出になったと言い切る潔さが素敵なエッセイ。私たちはお金を払う時、同時に目に見えないサービスや喜び、心の糧なども手にしています。身銭を切るからこそ得られるものがあるはず。たまには自分にご褒美もいいかもしれませんね。



原田ひ香『三千元の使い方』中央公論新社 2018



マンションで憧れの一人暮らしを始めた美帆、元証券会社勤務の姉・真帆、バブル期を経験し現在は夫と二人暮らしの母・智子、1,000 万円の貯金を心のよりどころに、夫亡きあと年金でつましく暮らす祖母の琴子。価値観も経済観念も違う都内に住む御厨家の女性達 4 人が岐路に立った時、お金の問題が浮き彫りになります。三千元という金額のお金の使い方をきっかけに、様々な発見や救いが得られる人生の選択物語です。



〈無駄を省いてスッキリ生活〉

赤星たみこ『もったいない事典』小学館 2006

イザベル・ボワノ『シンプルで心地いいパリの暮らし』ポプラ社 2019

群ようこ『しない。』集英社 2018



〈かんたん手作りアイデア〉

カモ『カモのものづくり BOOK』ワニブックス 2014

村上祥子『祥子さん、この知恵いただきます』東京書籍 2021

『今こそ持ちたい手作りのエコバッグ』ブティック社 2020

